

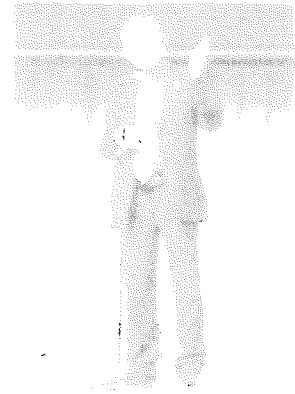
親善交流 発展誓う

本県とシンガポール 30周年式典

宮崎市

本県とシンガポールの親善交流30周年を記念した式典が10日、宮崎市のシーガイアコ

ンベンションセンターであった。これまでの交流事業に参加した中高生による体験発表などが行われ、今後のさらなる発展を誓った。



親善交流は、「21県シンガポール親善協会」(立山周平会長)と「シンガポール

21世紀友情計画親善協会」(クリストファー・チャン会長)が1987(昭和62)年から実施。現在、互いの中高生が毎年交互にホームステイしており、本県から1620人がシンガポールを訪れている。

式典は本県の協会が開いたもので、関係者約350人が参加。あいさつに立ったチャン会長は「今日を迎えられたのはたくさんの関係者の尽力のおかげ。60周年に向けて交流を発展していきたい」と述べた。

また、今年7月に交流事業に参加した同市・宮崎学園高1年の野田美里さん(16)ら3人が体験を発表。書道に興味を持つてもらおうと思った野田さんは「私のつたない英語を一生懸命理解しようとしてくれた。次は楽しく会話できるようにもっと英語を勉強したい」と話していた。

(中村和彦)